

2025

2-3月

# はしかけニューズレター

2024年度 第6号 通巻181号

2025年(令和7年)2月21日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 西川・金尾)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: [hashi-adm@biwahaku.jp](mailto:hashi-adm@biwahaku.jp) 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会  
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊  
(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ  
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ  
(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会  
(23) 海浜植物守りたい

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(2月～3月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 … 387人

グループ数 23グループ

(2025年1月31日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

冬の寒さが一段と深まる2月となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。博物館の樹冠トレイルから見える比良山系には真っ白な雪が山々を覆い、綺麗な風景が広がっております。この風景を見ると、清らかな気持ちになり、そして新たな気持ちで日々を大切に過ごしたいと感じます。以下は事務局からのお知らせです。

### ■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2025年度も継続して、はしかけ活動をされる方は更新手続きが必要です。はしかけ会員の皆様には別途ご案内(2月下旬頃)をお送りしますので、更新受付票のご提出を環境学習・交流係までお願いします。

本年度も博物館セミナー室での対面式での更新手続き、および担当学芸員を通じての更新手続きを行いませんのでご了承願います。(個人情報、現金の取り扱い業務による事故防止のため。)

◎ボランティア活動保険料納入の代行を博物館に依頼される方は、次の口座に3月14日(金)までに払い込みをお願いします。(手数料別) 郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)

※ 上記による納付が困難な場合は、はしかけ事務局までご相談ください。

※ 担当学芸員を通じての納付はお控え下さい。

ご不便をお掛けするところもございますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

詳細は、後日送付します更新手続きのご案内をご確認ください。

### ■2024年度 第4回はしかけ登録講座(オンライン)

今年度、第4回目のはしかけ登録講座を2025年2月23日(日)～3月9日(日)にオンラインにて予定しております。お近くにはしかけ登録をご希望の方がいらっしゃれば、ぜひ講座の開催をご案内ください。なお、受講のお申し込みの締め切り日は2月21日(金)となっております。ご注意ください。

### ■令和6年度(2024年)新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる! みんなで伝える! 市民科学の最前線!」について

今年度の新琵琶湖学セミナーでは、身近な環境や文化のことを自分たちで調べて伝える様々な方法を、事例を通してご紹介します。近年は、SNSを使う、水からDNAを調べるなど、多様な方法が用いられています。また、いち参加者として調査に参加したり、調査そのものを企画したり、調査をきっかけに活動が広がったりと、参加のあり方も様々です。フィールドレポーターやはし

かけなど、琵琶湖博物館が取り組んできた事例も紹介します。ぜひご参加ください！詳細は琵琶湖博物館ホームページをご確認ください。

第2回2月22日(土)、第3回3月29日(土) 13:30~15:30 琵琶湖博物館 ホール

(西川 真里奈)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 53名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■12月15日(日) 第187回定例調査 場所:法竜川周辺 参加者:22名

今回の調査は琵琶湖対岸の比良山系から寒風が吹き下ろす中、過去に定点調査していた法竜川周辺で調査を行いました。水温の低い中でもオイカワ、ヌマムツ、ヨシノボリ、カマツカ、ウツセミカジカ、ツチフキ、カダヤシ、ブルーギルなどが確認されました。

定点調査時代に見られた魚が見られなくなったり、数が減っていたりして、魚達のすみ環境が変化してきているのも確認できました。(文責:田中治男)

■1月19日(日) 勉強会 場所:琵琶湖博物館会議室 参加者:31名

新年初の活動は冬季恒例の勉強会です。石井千津さんから本題の前に、最近旅行に行かれたコスタリカの動植物の写真を見せていただきました。イグアナやオオハシ、ヤドクガエルなどなど熱帯の多様な生き物の素敵な写真たちでした。

本題では、DNA増幅手法であるPCR法の原理から、近年話題の環境DNA分析の基礎知識までお話しいただきました。どうやって特定の場所の塩基配列を増やすのか?PCRに使う酵素はタンパク質なのになぜ加熱しても失活しないのか?などの説明がありました。かつてはインキュベーターを使用して手動で加熱サイクルを管理していた、設計したプライマーの作成を外注するのにかなりの費用がかかった、などDNA研究初期の苦労話も披露いただきました。

藤岡康弘さんから、長年にわたり取り組んでこられたウツセミカジカについての研究成果をお話しいただきました。琵琶湖の深い場所から湖岸、河川中流にまで広く分布するものの、湖内にいるウツセミカジカと河川に年中いるウツセミカジカでは成熟サイズが異なり、特にオスは河川のほうが大きいなどの違いがあるそうです。両者の関係や、湖内での産卵場所の詳細が分かっていないなど、まだまだ謎は残っているとのこと。

琵琶湖のウツセミカジカは他地域のカジカ小卵型より卵が小さい傾向があり、生態にも違いがあることから別種とする意見があるものの、いまだ学名が付いていない状態で、若手研究者にぜひ解明してほしい、ということでした。

お二人からとても勉強になる話を聞くことができ、充実した時間でした。石井さん、藤岡さん、ありがとうございました。

(文責:中尾博行)

#### 【今後の予定】

2/16(日)は岐阜県の「アクア・トトぎふ」見学を予定しています。

3/30(日)は年度末の総会です。詳細は追ってご連絡します。



▲12月の活動で採集されたカマツカ



### (2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 橋本 道範

#### 【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

#### 【活動予定】

・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。

・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



### (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

#### 【活動報告】

■ 2024年11月24日(日) 琵琶湖博物館 参加者 2名  
オープンラボにてスケッチ。博物館敷地内を吟行。

■ 2024年12月22日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名  
2025年1月～12月までの活動についてミーティング。  
スケッチや敷地内での吟行も行いました。

#### 【活動予定】

- 2025年1月26日(日) 琵琶湖博物館  
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。  
活動時間 10時30分～(16時)
- 2025年2月23日(日) 琵琶湖博物館  
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。  
活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。  
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

#### ○博物館 de 俳句

11月の活動日に琵琶湖にかかる淡い虹を見ました。  
時雨れると琵琶湖では冬の虹を目にすることがあります。

この日出会った季語は  
冬凧、寒凧、枯野、水鳥、返り花、石路の花、枯蘆、枯草、笛鳴、冬の虹  
マフラー、手袋、年用意、など

樹間トレイルに樫(ゆずりは)があるのをご存じでしょうか？  
12月の活動日はみごとに対岸の山が冠雪をしていました。そこで一句。

樫と蓬萊山の冠雪と 金山桜子

今年もよろしくお願いいたします。

※写真は11月の烏瓜と年末に見た敷地内の石路の花です。





## (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員: 橋本 道範

### 【活動報告】

■11月27日(水) 参加者:3名

びわ博フェスの片付け。樹皮の残りで使える部分を残し、使えないものは廃棄したりしました。また、花緑公園から紡毛機と高機をいただいたので、組立てて動作確認をしました。

■12月7日(土) 参加者:2名

JICAからはしかけ活動の見学に来られました。1月のわくたんと同じメニューで「綿から糸へ」のワークショップをしました。研修生のみなさんに自国の綿についていろいろ教えていただけました。ワタとひとくちに言っても、いろいろなタイプのワタが利用されているのが面白かったです。

■1月11日(土)わくたんと共に「綿にふれてみよう」 参加者:3名

いつもより低学年の子どもたちが多かったので、綿打ちとスピンドルでの糸紡ぎは苦戦しました。でも中には熱心にずっと糸紡ぎをしている子もいました。

今回は新しい試みとして、糸車に関する絵本を読みながら、糸車作業で糸紡ぎする様子を再現。なかなか見られない光景を楽しんでいただけたと思います。



12月7日 JICA の研修

### 【活動予定】

■織姫の会

1月29日(水)、2月8日(土)、28日(水)、3月8日(土)、28日(水)

(文責:辻川智代)



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 里口 保文

### 【活動報告】

■2024年12月の活動

〇わくわく探検隊プログラム「岩石標本箱を作ろう」に参加

参加者: 4名

場所: 実習室 1

日時: 12月14日(土)

びわたんさん主催のイベント、「岩石標本箱を作ろう」に参加しました。前もって活動時に採取した岩石、花崗岩・チャート・石灰岩を使いました。参加者の方々にそれぞれの石の違いを観察して、観察シートに石の特徴と石の絵を描いてもらいました。その後、標本箱を作成して、三つの岩石を収め、出来上がりました。

参加下さった皆さんは、生き生きとした表情で石と親しまれ、楽しんで下さいました。当日参加した隊員も、石の名前や観察ポイントを伝え、標本箱作りのアドバイスをしました。このプログラムにおいては、びわたんさんと大津の岩石調査隊とが岩石採取から標本箱の完成までを共に活動し、理解を深められて有意義でした。

■今後の活動予定

〇勉強会 岩石持ち寄り情報交換会

日時: 1月28日(火) 13:30~15:30 実習室 1

〇第38回地学研究発表会への参加

(主催 琵琶湖博物館地学研究発表会事務局)

日時: 2月9日(日) 午後

会場: 琵琶湖博物館 セミナー室

## 【活動報告】

■12月15日(土)10:00～15:00 参加者3名 担当職員1名

2024年最後の温故写新の活動は大津市の堅田地域で行いました。堅田は漁師町として古くから栄えた地域で浮御堂をはじめ歴史・文化的にも興味深いスポットが多く、それぞれの場所を歩きながら撮影を楽しみました。特に琵琶湖博物館が保管している大橋宇三郎氏が堅田で撮影した写真を片手に、その撮影地点を探して回るという温故写新ならではの取り組みを行いました。全ての写真の撮影地点を明らかにすることができ、街の移り変わりを知ることが出来ました。今後も同様の活動を続けていき、びわ博フェスなどで滋賀県のような地域の風景の移り変わりをみて頂く展示会などを行いたいと考えています。



## 【活動予定】

- 2月 撮影技術、写真加工技術に関する勉強会
- 3月 総会

※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。

※温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写新担当学芸員(金尾・加藤)までご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## (7) 暮らしをつづる会

## 【活動報告】

活動はありませんでした。

## 【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、近江八幡市内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

## 【活動報告】

■活動紹介に向けて You Tube 動画の編集チェック

2024年10月に撮影協力した、琵琶湖博物館の「びわこのちからチャンネル」にアップする You Tube 動画の編集チェックを事務局(会長・事務担当)と担当学芸員等で行いました。

■古琵琶湖発掘調査隊 総会

1月18日(土)に開催を予定していましたが、2月以降に開催を延期しました。

## 【活動予定】

■古琵琶湖発掘調査隊 総会

日時:未定

## 【お知らせ】

■2024年12月27日に、はしかけ活動を紹介する You Tube 動画が公開されました。ぜひ見てください。

古琵琶湖発掘調査隊 [https://youtu.be/\\_xAbIucfuZA?si=cN50EgTIVvpaDRTh](https://youtu.be/_xAbIucfuZA?si=cN50EgTIVvpaDRTh)



■古琵琶湖発掘調査隊の会員の新規加入募集を再開しました。



## (9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:奥田 岬

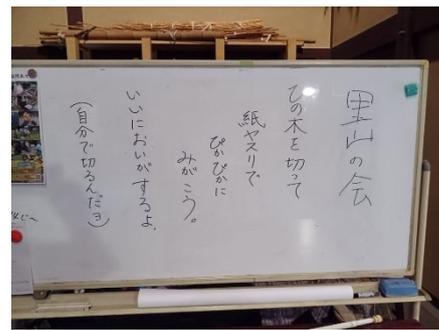
■11月16日(土) びわ博フェス はしかけ参加者8名 一般参加者60名

今年は、里山や木に親しみを持っていただくこと、ヒノキの香りを楽しんでもらうことをテーマに、すべすべピカピカのヒノキグッズを作ってもらいました。

彦根産の直径10センチ程のヒノキを、ノコギリで輪切りをしてもらい、80番・240番・400番と粗から細の3つの紙やすりで表面を磨いてヒノキグッズを仕上げてもらいます。切るところから始めて45分という限られた時間であったため、最終完成は持ち帰っての方が多かった様ですが、楽しみのおみやげになっていたら良かったです。

家族連れの参加者が多く、学生のグループもありました。最初はぎこちない人も段々とコツを覚えていく様子を見ていると、木を加工することも体験が重要だなあと改めて思いました。

これからも、「里山の会」・「びわ博」が多くの人たちと「里山や森とのかけはし」になりますように、共感の輪がつながっていきま  
すように… ヒノキの香りの記憶から 物語が創られていく その次が紡がれていく



■1月11日(土) 冬の里山体験教室 下見 参加者7名

1月19日(日)に開催する冬の里山体験教室の下見を行いました。冬の里山を散策した後、当日実施する予定の火おこしと花炭づくりのやり方を確認しました。前日まで雪が降り、うっすら雪が積もっていたこともあり、火おこしに使う枝が湿気を含んでいる状態でしたが、立ち木の枯れ枝なら中が乾いていることや、スギの葉は最初の火力付けに良いことなどを学びました。

ドングリやまつぼっくりなど様々なものを缶に入れ、花炭を作りました。缶から取り出したばかりの花炭がきらきらと光っていました。これは最初だけで、徐々に



黒くなっていくという話を会員の方から聞いて、驚きました。缶の成分が付着しているのかなど様々な予想が飛び交いましたが結論はでませんでした。

最後に小丸太を並べてベンチづくりをしました。本番の際に紐で固定して完成させようと思います。

### 【今後の活動予定】

1月19日(日) 冬の里山体験教室本番

3月1日(土) きのご菌打ち、総会



## (10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

新年、鈴鹿山脈北部や比良山系は白くなり、いよいよ寒くなってきた。でも、この冬は紅葉も遅く、イロハカエデも、街中の公園などでは、葉が黄色いまま未だ葉を落としていない。琵琶湖博物館のタイワンフウもほとんど葉が残っていて、他の葉が散ってしまった空間に日が差し込み、フウの葉がきれいだ。

### 【活動報告】

12月1日(日) 都合によりお休み

1月5日(日) 「博物館周辺、樹冠トレイルでの観察」 博物館外と樹冠トレイル 10:00~12:00すぎ 参加者4名

この日は、風も無く、比較的過ごしやすかった。気温7°C。

そして、新しい見学のメンバーが参加。久しぶりの新メンバー参加が嬉しく、また、博物館の情報誌「びわはく」にメンバー(古琵琶湖発掘調査隊にも所属)の報告文が載っているのを見つけ、化石を掘る楽しさや実や葉が出てくるときの状態などを聞き、皆で盛り上がった。固い実や骨ばかりでなく、柔らかい腐りやすい葉が残っていることが不思議であり、それらをたどることで当時の森林や土地の状況、気候などが分かるなんて、ロマンチックな世界だ。

外へ出て、初めにヤツデを観察。この時期ちょうど花を咲かせている。白い花卉と雄しべ、中央の花托部分の蜜と合わさって反射のせいかよく目立つ。雄しべが先に出て、その後花卉と雄しべが散って、雌しべが伸びる仕組みらしい。よく見ると、雌しべだけが付いていて柱頭がクルンと分かれているのが多数あった。柱頭が黒っぽくなっているのは、もう結実、何もなく膨らんでいる物は今から咲く蕾、ということも分かった。普段は、咲いている、としか見ていなかったもので、よく知っているメンバーの話を聞きながら、じっくりルーペで観察するのは、やはり楽しい!

そのまま近くにあったアラカシの実、シャリンバイの黒い実、紅葉した葉(結構赤くてつやつや)、周辺に生えている幼木(アラカシ、メタセコイア、タイワンフウ)を見ながら進んでいると、ンン?!...、「昔は食べたよ」とシャリンバイの熟した実(正確には果皮)を1人が食べていて、ビックリ! 今まで「これはバラ科だよな、モッコクとどう違う?」などと話しながら何度も見て来たはずなのに、初めてそんなことを聞いて、驚きしかなかった。食べてみると、リンゴの皮のような匂いと味、やはりバラ科だからか?

その後、メタセコイアとセコイア、アスナロとサワラとヒノキの葉裏、ブナの新芽、トウネズミモチ(常緑広葉樹で葉が対生、今年には実が多い)、サザンカ(正確にはカンツバキ)とヤブツバキ(花は未だ咲いていない)、アカメヤナギ(マルバヤナギ)、タブノキ、ユズリハ、トチノキの新芽を見た。めずらしく、樹冠トレイルの下の池にはコガモが3羽いた。琵琶湖を見ると、黒い水鳥(ほとんどがオオバン、その中にキンクロハジロが数羽)が多く、その数も例年よりかなり少ない。

最後にコブシの冬芽を見に行った。今年は、ふわふわの花芽が少なく、ほとんどが葉芽だ。去年はたくさん花が咲き、実ができたらしく、地面に多くの実の残骸が落ちていた。近くにあったヌルデの冬芽は、薄茶色の毛布のようでラクダの顔に見えると教えてもらった。そう言われると益々扁平なラクダの顔が張り付いているように思えて、冬芽は本当におもしろい。

この後、休憩し、解散。新メンバー(見学)の方にも楽しんで頂けたようで良かったー。

### 【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。  
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 2月 例年お休み
- 3月2日(日) 「持ち寄ったものの観察」 実習室またはラボ
- 4月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



## (11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

オンラインで珪藻の「詰め込み教育」を進めています。これは珪藻の一定倍率の光学顕微鏡写真を、学術誌などの投稿規定で指定された限られたスペースの中に「なるべく学名の ABC 順に、なるべく隙間なく、なるべく美しく」詰め込む技術を学んでもらうものです。決してスパルタ教育で珪藻を教えるものではありません。当初、クリスマスの時期までに影の会長から会員に課題を提示し、正月明けに影の会長まで提出してもらう予定でした。しかし出題が遅れに遅れ、ようやく出題されたのは 1 月 4 日のことでした。そこで本件、2 月末を〆切としてゆっくりやることにしました。桜の時期に合わせて行われるたんさいぼうの会第 79 回総会で、講評と改善のための講座を行います。最も上手に詰め込んだ人には、影の会長から珪藻の研究に役立つ何かをプレゼントします。会員以外でも関心がある方は、影の会長大塚泰介までご連絡下さい。

珪藻の「詰め込み教育」に遅れが生じたのは、日本珪藻学会会長に再選された影の会長が年末にドタバタしていたからです。小さい学会なので会長は幹事長のような役回りであり、何かと時間をとられるのが実情です。加えて来年からは日本分類学会連合の代表に就任することも決まってしまうました。

会員の富さんが投稿していた古琵琶湖層群蒲生層の化石珪藻の論文は、1 月中旬にようやく査読に対応した修正を終え、修正稿を投稿しました。もう一回くらい修正が必要そうですが、出版されればたんさいぼうの会会員名義の主著者による 21 本目の論文になります。他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

### 【活動予定】

会員の西坂一成さんと影の会長は、2 月 8 日(土)に兵庫県立国見の森公園で行われる「宍粟市環境講座 顕微鏡で藻の世界をのぞこう」で講師を務めます。詳細は次のニューズレターで報告します。

たんさいぼうの会第 79 回総会を、花見の都合により、桜の開花時期に合わせて開催します。3 月、桜の開花時期が概ね予想できるようになってから日程調整をします。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



## (12) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

昨年夏が猛暑だったこともあり、暖かい冬になるかと油断していたら、正月 3 が日を過ぎたころから厳しい寒さに見舞われ、インフルエンザが猛威を振るう中で新しい年が始まりました。今年 1 年、災害や事故もなく、健康で無事に過ごせたらと祈らずにはいられません。

### 【活動報告】

昨年 12 月 15 日に琵琶湖博物館で開催された第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会に、「滋賀県の水田における 2 種のカブトエビとトゲカイエビの新たな生息地の記録」というタイトルでポスター発表を行いました。同研究会では、兵庫県の高校生のグループから、淡路島に生息するカブトエビ類に関する研究発表もありました。田んぼのエビ類に関心をもつ若い人たちがいることは、とてもうれしく感じられました。

### 【活動予定】

例年通り、3 月に総会を開催する予定です。2 月に入ったら、メールで日程についての連絡を行います。

(山川 栄樹)



※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10時から 14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆12月の活動 12/18(水) 10組(幼児 14名、大人 10名)

寒さも厳しくない冬の晴れ、たくさんの親子が来てくださりました。畑の横の森へ出かけました。イチイガシの樹皮をめくると、小さな虫たちが冬眠をしています。タマムシの仲間やクモ、カメムシなどが「さむいよー」と寄り添いながらじっとしています。「ごめんね」と言いながら観察させてもらいます。生き物たちの冬の過ごし方に触れました。なかなか生き物に出会えない冬ですが、こんな所で生きているを感じる時間でした。

森を抜けて、ホワイトビーチへ行ってみました。子どもたちには大人気の場所。広くて走り回れて、砂がいっぱいあって、こけても痛くなく、こけた方が面白い。大人は寒さに震えますが、好きなように砂で遊べる場所は大人も笑顔になります。遠くの比良山は雪景色、冬が進んでいるのを感じました。

◆1月の活動 1/15(水) 5組(幼児 9名、大人 6名)

琵琶湖には寒い風が吹き、工房の周囲の木々は大きく揺れています。工房や田んぼは風が吹きません。琵琶湖博物館のオープンと共に植えられた木々は、防風林となってみんなを守っています。インフルエンザが流行っているようですが、子どもたちは元気、森へ探検に出かけました。土手を見ると、なんとフキノトウが芽吹いています。小さく可愛い緑のフキノトウ、冷たい冬を耐えるどころか、もう春に向けて準備万端です。匂いを嗅ぐとほんのり春の香り。それぞれ持ち帰ってもらいました。今頃フキ味噌をご飯に乗せて食べておられるかなあ。

まだ残っているキクイモを掘りました。土の中からポコポコ出てきます。サツマイモが不作だったので、こんなにサツマイモも採れたらなあと思うほどです。土を起こすと冬眠中のヌマガエルが。先月に続いて今月も「ごめんね」と観察して土へ戻しました。春を感じるフキノトウとまだまだ冬のヌマガエル。季節のいろいろを感じました。

森へ探検に出かけました。工房裏を歩いていると、足元にはながーいヒモのようなものが。クズのつるでした。どこまで伸びているかなあと引っ張り始めると、どこまでも続いています。「うんとこしょ！どっこいしょ！」と引っ張っても全く切れません。なんだか楽しくなってきた、さらに子どもも大人も引っ張っても切れません。クズって強いなあ、楽しいなあ探検でした。



12月森で冬眠中の虫観察



12月ホワイトビーチで



1月フキノトウ見つけたよ



1月引っ張っても抜けません

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
2月	2月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。
3月	3月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ3月	毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



## (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

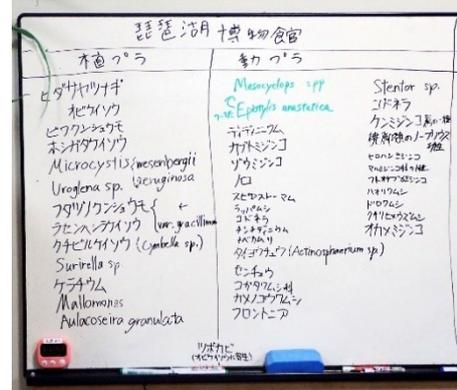
グループ担当職員: 大塚 泰介

■ 2024年12月7日(土) 参加者: 7名、学芸員: 2名

烏丸半島のプランクトンを観察しました。今回は JICA の研修員の方々が見学にいらっしやいました。



12月7日の活動の様子



12月7日の活動で見つかったプランクトン

■ 2025年1月13日(月) 参加者 11:名、学芸員: 1名

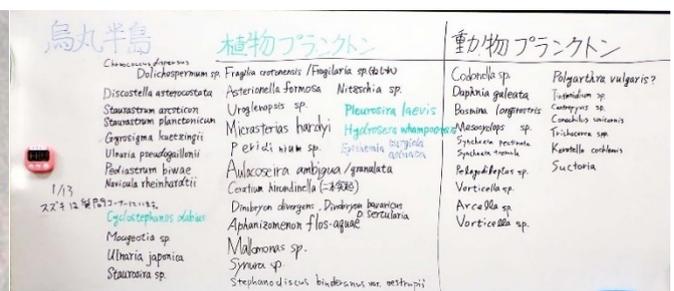
烏丸半島のプランクトンを観察しました。波風が強くサンプル内には泥が多く入っていたのですが何故か底生動物はあまり入っていませんでした。



採集の様子



*Hydropsira whampoensis*



1月13日の活動で見つかったプランクトン

### 【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



## (15) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 渡邊 俊洋、桑原 康一

### 【活動報告】

12月14日(土) 岩石標本箱をつくろう! 参加者 15名

大津岩石調査隊の皆さんとのコラボプログラムでした。わく探で一緒に何かしたい! と声をかけたのは一年前。活動に参加させて頂き、標本用の岩石採集にも協力していただきました。そして当日、参加者が集まるかドキドキしましたが、予想を超える人数でした。標本箱を作ったのは15名ですが、保護者の方を含めると49名。久々に机イス追加で対応しました。

まずは岩石をじっくり観察。触ったりルーペを使ったり、穴があくほど観察しました(^^)続いてランダムに置いていた岩石を同じ種類の岩石ごとに分類。石灰岩・チャート・花崗岩・砂岩があつと言う間に分けられていきました。分類された4種の岩石の中から3種のお気に入りを選んでもらいました。



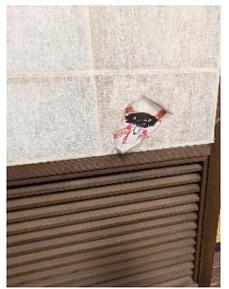
ここから、ワークシートに取り組みます。このワークシートは調査隊メンバー作成。選んだ岩石の特徴や成り立ちを調査隊の方々に聞きながら完成させます。子どもたちが取り組んでいる間、保護者は標本箱作り…保護者一人で子供複数のところはびわたんメンバーがフォロー。

完成した後、4種の岩石を採集した様子をプロジェクターで見て頂き、調査隊の皆さんに石の魅力や活動のきっかけをインタビューしました。博物館には様々なはしかけグループがあり、展示を観る、イベントに参加するだけじゃない楽しみ方がある事を知って頂けたかな?と思います。

1月11日(土) 綿にふれてみよう 参加者 18名

はたおり探検隊のみなさんとのコラボプログラムです。初めて実施したのは2006年。2015年からは毎年実施しています。いぶし銀プログラム(^^)

綿の実から種を取り出し(わたくり)、綿のゴミやよれを取り除きふわふわにし(わたうち)、コマ(紡錘車)を使って糸を紡ぎます。糸紡ぎは綿うちの出来と自分の手の感覚で細く丈夫な糸が出来るかが決まります。凸凹の糸も自分で紡ぐと愛着が湧いてきます。



糸が出来たら、はたおり探検隊の皆さんによる、糸車と機織の実演です。今回は、びわたんキッズメンバーが「糸車に関する絵本」を音読して再現する中で、糸車の実演をはたおり探検隊にして頂きました。絵本に描かれている空間にいるような、とても素敵な時間が流れました。はたおりの実演は、経糸と緯糸がどうなって布になるのか説明が難しいですが、機織の姿を見る事だけでも貴重な体験だと思います。たくさんの技術の積み重ねで綿から糸に、糸から布になるんだと感じて頂けたと思います。



## (16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

### 【活動報告】

■12月8日(日) 参加者:5名  
コウライニゴイの解剖、カメの解剖、イタチの解剖、カメの骨の組み立て、キツネの組み立てを行いました。

■12月21日(土) 参加者:3名  
イタチの解剖、アライグマの解剖を行いました。

■1月12日(日) 参加者:4名  
イタチの解剖、コウライニゴイの解剖、シマリスの解剖を行いました。

■1月18日(土) 参加者:6名  
イタチの解剖、タヌキの解剖、シマリスの解剖、イノシシの解剖、キツネの組み立てを行いました。

この日行ったイノシシは、知り合いの方からいただいたイノシシの頭の部分だったのですが、今回改めて観察してみても驚いたのが、その鼻の部分でした。

鼻の先に向かってとても丈夫そうな腱が通っているのが見て取れたのですが、あまり今まで取り組んできた動物では見た記憶がなかったので、とても興味深かったです。



▲シマリスのスケッチです

おそらく私たちが思っていた以上にイノシンにとって鼻というのはよく使うもので、重要なものなのかもしれないとメンバーで話し合い、動物の体の面白さについて確認しあえてとても楽しかったです。

### 【活動予定】

2、3月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



## (17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:大槻 達郎

■12月8日(日) 午前 参加者: 12名

活動内容:しめ縄作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

1年は早いもので12月になり、しめ縄作りの時期になりました。事前に担当で飾りを準備し、しめ縄に飾る植物や縁起物などの知識を勉強しました。しめ縄作りには、うるち米より、もち米のわらを使ったほうが、長さもあり、粘り気もあるため適しているそうです。

最近はしめ縄もいろいろなものが販売されており、買えばすぐに手に入ります。しかし、稲わらから自分でしめ縄を作るという体験は、とても価値があると思います。2025年は巳年ということで、編んだしめ縄を蛇のように巻いたり、水引きで作る飾りの結び方を練習したり、ドライハーブを飾ったりと、メンバーがそれぞれ、オリジナルのしめ縄作りを楽しみました。

### 【参加者の感想】

- ・市販のしめ縄では見られない、まだ青みのある藁の色がきれいだなと思いながら縄をよっていました。色合いの変化も楽しみです。
- ・縄ができてくるとそれだけで藁が素敵なものに変身して、昔の人はすごいなと思いました。お米をとって藁を活かしてお正月準備。うれしいです。
- ・ウラジロの担当で山に採りにいくのも楽しかったし、ウラジロは新聞で挟んで乾燥させると青いまま残るそうです。
- ・しめ縄づくりは何回させてもらっても、1年後は初心者に戻りうまくできませんでしたが、楽しかったです。ハーブの材料やパンパスグラスの準備助かりました。
- ・稲わらを編むのは、なかなか力も入り、神社などに飾られている大きなしめ縄が作られているのは、すごい技だと思いました。  
しめ飾りに使われる材料の由来や水引きのあわじ結びを教えていただいたり、楽しい時間でした。



12月22日(日) 午前 参加者: 4名

活動内容:田んぼ体験 博物館主催のしめ縄作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

琵琶湖博物館の田んぼ体験のしめ縄作りに、4名お手伝いとして参加させていただきました。ご家族連れで参加されていたお客様が多かったです。ご参加いただきましたお子さんとの交流がとても楽しかったです。ありがとうございました。

### 【活動予定】

- ・1月19日(日) 10:00~15:00 廃油石鹼作り(実習室2)



## (18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 今田 舜介

### 【活動報告】

■11月9日(土)10~12時 参加者:9名 琵琶湖博物館 生活実験工房

びわ博フェス2024のワークショップ「土の中から虫を探そう!」のリハーサルを実施しました。当日の進行手順や実際の虫の抽出、実体顕微鏡での観察を体験しました。



■11月17日(日)9~12時 参加者:11名 一般参加:8家族 35人 琵琶湖博物館 生活実験工房

11月17日びわ博フェス2024ワークショップ本番の日、集合時にはテーブルやベンチなどの準備はおおむね終了しており、工房前に集まり最終的な段取りと役割分担を確認。9:30ごろから一般の参加者が受付に来られました。ほぼ時間前には予定の8家族が受付を済ませ実際の作業に入りました。用意された腐葉土や落葉からそれぞれ吸虫管で虫を抜き出し、その後室内において実体顕微鏡で虫を観察、予定通り11:45にはすべて終了し、その後の後片付けも12:00過ぎに終了しました。皆さん満足されて帰られたようでした。



また、「虫架け通信」74号、75号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

### 【活動予定】

今年度も残り3ヶ月ですが、1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。寒い中ですが、観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



## (19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■12月14日(土)及び1月11日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)延べ11名 (博物館職員)林

内容:屋外展示のPR策として取り組んでいる「めざせ!フォレストマスター」、「おすすめの木ガイド」及び「木の実を使ったリース作成」の検討を行った。

①「めざせ！フォレストマスター」について

・10月6日から運用開始した秋版は12月14日で終了とする。利用状況はざっとみでレベル1は200部、レベル2、3は50部以下であった。  
・冬版はレベルを分けず1枚のみとする。期間は1月～2月とする。内容は(新規)ツバキの仲間を探せ。トチノキの冬芽を探せ。フウの実を探せ。(秋版を使用)カヤネズミのオブジェを探せ。以上の四つのミッションとし分かりやすくするためカラーで作成してみる。(1月14日にC展示室とアトリウム出口で運用開始した。)



②「おすすめの木ガイド」について

説明文は一般的な植物の説明の他にびわ博の太古の森に関連した文章を追加するため文面の検討と既存文章の見直しを行った。写真はできるだけびわ博の樹木を使用し適宜雄花、雌花、球果、化石を追加することにした。

③「木の実を使ったリース作成」について

各自収集した木の実などを持ち寄り1月25日(土)に作成することにした。

【今後の予定】

- 1月25日(土)10:00～12:00 集合場所:生活実験工房 内容:リース作成など
- 2月8日(土)及び22日(土)10:00～12:00 内容:つる植物の除草など



(20) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

はしかけ代表アドレス: hashi-adm@biwahaku.jp

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

琵琶湖梁山泊は、昨年9月のはしかけ登録講座で1人の新入会員を迎え、活動を再開しました。その唯一の会員は現在、ミジンコの殻の表面の模様に関心を持っています。ミジンコの殻の表面にはしばしば区画された模様があるのですが、その形は分類群によって異なります。ミジンコの成長とともに区画の数が増えるのか、それとも区画一つ一つが大きくなるのか、それを調べるにはどうすれば良いのか、などについて、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」会員である同年代の仲間を交えて議論しました。

【活動予定】

引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか?琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展しすぎて先生の手には負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。はしかけ会員は、まずは上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。はしかけ会員でない人は、まずは2月23日(日)～3月9日(日)に行われるはしかけ登録講座(オンライン)ではしかけ登録を。集え梁山泊へ!

【活動報告】

■ 今のところ特に進展はありません。

【活動予定】

■ はしかけ登録講座の参加者に興味をお持ちの方があったので、1月26日(日)午後にお会いし、コロナ禍以前の活動内容について説明してどういふことに興味をお持ちなのかといったことをお伺いする予定です。これを機に、しばらく停滞している活動の再開を実現したいと思います。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和6年11月28日(木) 10:00-12:00 晴 参加者 5名

1 活動先: 東近江市五個荘伊野部町一帯

2 調査目的

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は東近江市五個荘伊野部町の湧水である西の沢水源地についての現地調査を行い、集落内の生活用水・灌漑用水の歴史と現況、また、湧水西の沢と吉住池と伊野部町の関係、昔の姿を残す集落の様子をあわせて調査した。

3 調査結果

①伊野部集落の変遷について

伊野部の集落は東近江市五個荘地区の最も東に位置し海拔は120m、愛知川左岸部であり、鈴鹿山系から運ばれた砂が堆積してできた扇状地の中央部と箕作山の麓層面に囲まれた低湿地地帯である。集落の南には吉住池と呼ばれる溜池、北には西の沢と古来より二つの主要な用水源を持ち、下流の五個荘地域の水源の役割を果たしてきた地域である。

②伊野部集落の湧水について

集落内に、湧水の起点として「河川法指定区域起点」のコンクリート杭がある。山本川起点であるが、今は水がなく枯れていたが、少し歩くと、どんどん水が湧き出し、昔ながらの「カワト跡」もあり、すぐにある程度の水量を形成していた。また、きれいな水にクレソンが自生していた。より下手には川底からの湧水もあり、水量が多い。

また、住民の清掃活動が頻繁に行われている様子が伺われる。この山本川は地域の灌漑用水として分水流路が集落内の田畑に張り巡らされていたことも確認できた。

③伊野部集落を巡って

集落内のメイン道路は広めで車も通りやすいが一步入り込むと昔ながらの狭い道路がある。集落の東側に、当初共同水道として使われていたポンプ施設も確認できた。

また、この集落には伊野部建部神社が鎮座しており、日本武尊を祭神としている神社であり、元々は生れ出る水を祀ることから始まった神社とされ、春の建部祭には下流の集落の神輿がここに集結し、西の沢の水を汲み、祀る神にお礼をする風習があり、古来より水源を掌握した政治的権力がこの地域に存在していたとの想像できる。



□河川法指定区域起点標



□起点標の水源



□起点標直ぐの水路風景



□川幅が広がった西の沢



□三ツ橋の分水堤



□伊野部建部神社本殿

■ 令和6年12月19日(木) 10:00-12:00 雪交じりの晴 参加者 5名

1 活動先: 東近江市平尾町一帯

2 調査目的

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は東近江市平尾町についての現地調査を行い、集落内の生活用水・灌漑用水の歴史と現況を調査した。

3 調査結果

平尾町は東光寺への参詣道に位置し、この地域では最も高台に位置しており、平尾町から南西方向を見下ろした風景は、左手から、信楽山地、布引山、三上山、雪野山、八幡山、箕作山、観音寺山などが一望できる風光明媚な場所であり、訪問当時も少し雪模様ながらも、晴れ間が覗くと、その素晴らしさが実感できた。立地が高台のため、溜池が多数存在していたとの記録があるが、現在残存しているのは3つである。上溜、中溜、下溜と呼ばれている。現地の看板によると、所有は平尾区、管理は区長と記されており、3つの溜池の管理は行き届いていることは確認できた。

また、当地は愛知川以外に、棚上川、尾谷川、加領川があり、いずれの川も尻無川で琵琶湖につくまで伏流して途中で地表にでることはないため、地下水が出やすい要因となっており、水が潜りそうところに溜池を敷設したと考えられる。

集落には北野神社(京都北野天満宮系統の神社)があり、清掃活動も行われていた。周囲の高台の田畑は棚田になっており、給水マンホールも敷設されていた。集落内には土壁の蔵も見受けられ、風情を感じられる。集落内に上述の幹線水路も確認できた。集落内には防火水利用案内板表示もあり、防火用水への備えもあった。水利用にとって防火用水確保は重要事項である。



□下溜全景



□中溜全景



□上溜全景



□平尾町より琵琶湖方面全景



□北野神社



□集落内「茶くら」喫茶店



□集落内防火用水案内板



□集落内の土蔵



□棚田への給水マンホール

参考文献:

東近江市史愛東の歴史編集委員会編集、『東近江市史 愛東の歴史』第1巻資料編、東近江市発行、2008年。  
五個荘町史編さん委員会編、『五個荘町史 第3巻、五個荘町役場発行、1992年。

(執筆者 小篠)



## (23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:大槻 達郎

\*2024年12月3日(火) 9時20分~11時20分

天候:晴れ 気温:10°C(AM9時30分) 琵琶湖の水位:-43cm 参加者:6名

### 新海浜の状況

- \*波は静かに浜に寄せている。水面と空が一体のように青空が広がっている。
- \*水位が低く浜が広がったように見える。
- \*アメリカネナシカズラは見つからなかった。
- \*風もなく太陽が暖かい。作業時には少し汗ばむほどの小春日和の作業日。

### 定点観測



今日の新海浜



ハマエンドウ



ハマゴウ



保護区外のハマエンドウ

### 海浜植物の生育状況

ハマエンドウ:全体的に緑も濃い。新しくできた株も生長して緑も濃い。保護区外の生育は、背も高く葉も大きい。  
(境界杭2段目のロープを超した。次回高さを測定する。)

昨年より生育面積が広がった場所

- ・駐車場側雑草の中。・西側の松の木の下。・中央の浜寄り。・通路浜側松の木の周辺。
- ・南側(次回以降に面積の実測が必要)

ハマゴウ:種が地面にたくさん落ち全体的に枯れている。(地面が広がっている)

ハマヒルガオ:全体的に黄色くなり株も消えかけてきた。

### 今日の作業内容

1. ミーティング(助成金申請及び生育観察について)
2. 保護区内・浜の除草(コマツヨイグサ・ツルニチニチソウ他)
3. ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側)
4. 保護区域内の松葉の枯れ葉を敷く。(防寒対策に効果が見られる)



ハマゴウ

### 広がったハマエンドウ



駐車場側雑草の中



西側の松の木の下



中央の浜寄り



南側



西側(保護区域外)



浜の動物の足跡(キツネ? タヌキ?)

**\*2024年12月20日(金) 9時30分~11時30分**

天候:くもり 気温:4°C(AM9時30分) 琵琶湖の水位:-50cm 参加者:6名

**新海浜の状況**

- \* 波は静かに浜に寄せている。カモ?が数羽羽を休めている。対岸の比良山系には雪が積もっている。
- \* 浜はハマゴウも枯れハマヒルガオも姿を消し静かで真冬の到来を感じる。
- \* アメリカネナシカズラは見つからなかった。
- \* 風はないが手先が冷たく体感気温が低く感じる今年最後の作業日。

**定点観測**



今日の新海浜



ハマエンドウ



ハマゴウ



保護区外ハマエンドウ

**海浜植物の生育状況**

ハマエンドウ:全体的に緑も濃い。新しくできた株も生長して緑も濃い。  
保護区外の背も高く葉も大きい。(背丈測定値 47cm)

ハマゴウ:黒い種が地面に落ち枯れている。

ハマヒルガオ:波に洗われた根が所々に見えるが茎は姿を消した。

**今日の作業内容**

1. ミーティング(本年度の活動報告及び本日の作業について)
2. ハマエンドウの生育面積測定(保護区内)
3. ツルニチニチソウ駆除(保護区外 東側)



枯れたハマゴウ

**ハマエンドウの生育面積測定結果**

**1. 面積**

2022年9月29日測定 保護区域面積約 330 m<sup>2</sup>

ハマエンドウ生育面積約 156 m<sup>2</sup>

2024年12月20日測定 保護区域面積約 350 m<sup>2</sup>

(2022年11月8日 駐車場東側 21 m<sup>2</sup> 拡張)

ハマエンドウ生育面積約 270 m<sup>2</sup>

(増加面積 114 m<sup>2</sup>)

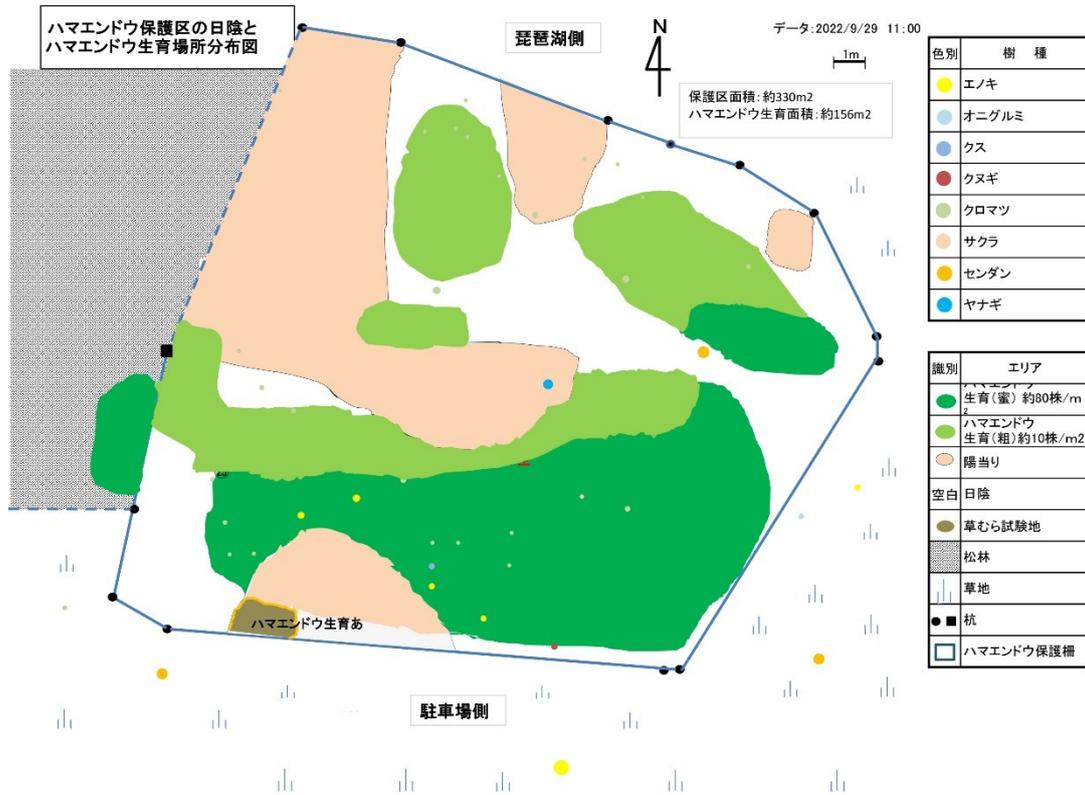


ハマエンドウの幼葉

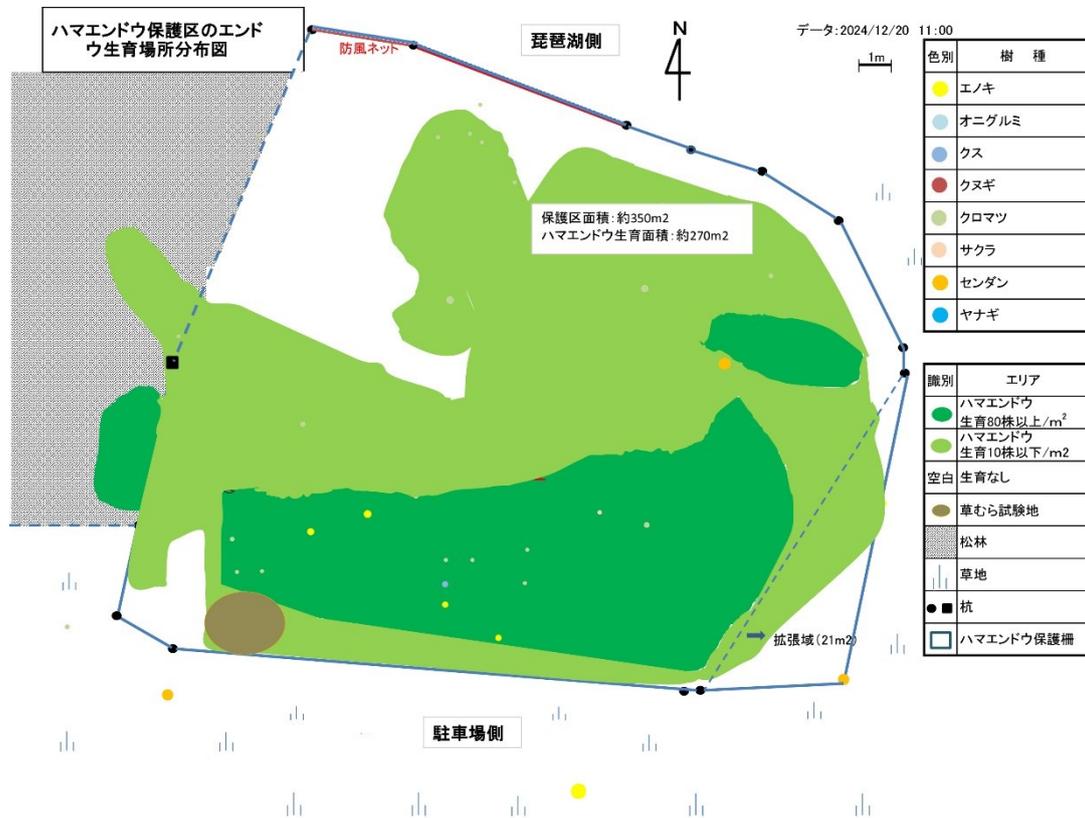
2. 今まで点在していたハマエンドウが全体的に広がってきた。
3. 今まで生育していなかった日当たりの中央部分にも点在している。
4. あちこちに新しい株が生育している。
5. 駐車場側南の保護区域外にも新しい株が生育している。

## 6. 特に生育している場所

- (1)チガヤに守られた西側(保護区外) (2)東側センダンの木の日陰エリア
- (3)外来種のみ除草した駐車場側エリア (4)拡張した南東エリア
- (5)浜側の松の木のエリア



ハマエンドウの生育面積(2022年9月29日測定)



ハマエンドウの生育面積(2024年12月20日測定)

## 生育面積測定



ミーティング



ツルニチニチソウ除草

## 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(2月～3月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 水鳥を観察しよう！	双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たちの様々な違いに気づくことができるプログラムです。	2025年 2月8日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖 博物館 実習室 2、C展示 室、樹幹 トレイル	※先着 ※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2025年 2月9日	日	10時30分～ 12時30分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	多少汚れてもよい服装をご準備下さい。 ※要事前申込
ちこあそ・2月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2025年 2月19日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

【わくわく探検隊】 ミニ水族展示をつくろ う！	水族展示の裏側や工夫な ど、普段聞けない話を聞い たり、実際に展示している魚 をモチーフにしたミニ水族展 示を工作します。琵琶湖に棲 む魚を身近に感じることがで きるプログラムです。	2025年 3月8日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖 博物館 実習室 2、水族 展示室	※先着 ※雨天決行
ちこあそ・3月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然 遊びや、昔の暮らしの体験 をしたりしながらゆっくりと過 ごすちっちゃな子どもの遊び 場です。	2025年 3月19日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制 度の概要を説明するととも に、はしかけ各グループの 活動内容を紹介します。ま た、はしかけ制度への入会 手続きを行います。	2025年 2月23日 ～3月9日		左記期間のう ち任意の時間 (1時間30分 程度)	オンライ ン	※登録にはボラ ンティア保険料 350円が必要 ※要事前申込

## 4. 生活実験工房からのお知らせ

12月22日に「しめ縄づくり」のイベントを実施しました。今回も多数のはしかけ会員の方に応援を頂きました。本当にありがとうございました。

参加者の皆様が、2025年が良き年が迎えられようと心を込めて、しめ縄を作成されている姿が印象的でした。

イベント参加後には、皆様それぞれの出来栄えに満足されている様子を伺ってよかったです。

1月の休館日には、工房の田んぼにて、「どんど焼き」を行いました。

今後のイベントは以下のとおりです。

### 【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房

2月9日(日) わら細工



▲12/22 しめ縄づくりイベント お話の様子



▲12/22 しめ縄づくりイベント 完成した しめ飾り

担当:環境学習・交流係

## 5. その他の事項

---

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。